

草加市の「未来への扉」を皆さんと開く

<http://www.wan-happy.jp>草加市議員
関一幸せき
かずゆき
関一幸

関一幸事務所

〒340-0023
埼玉県草加市谷塚町 580
TEL: 048-923-1188
FAX: 048-927-8818
e-mail: office@wan-happy.jp

市政報告

特集

「温故知新」古きをたずねて新しきを知る。

わがまち「谷塚」歴史を振り返る

時間のたつのは早いもので、私が草加の谷塚で生を受けてから47年になります。これからの未来像を語らせていただく前に、まず私の生まれ育ったふるさととも言える谷塚地区の歴史を、私自身の原体験を振り返りながらめぐってみたいと思います。

谷塚町誕生の変遷

現在の草加市南部の地域は、今から121年前（明治22年）町村制施行による、9箇村の合併で谷塚村が誕生したことから始まりました。

その10年後（明治32年）に東武鉄道、北千住〜久喜間が開通し、大正14年に谷塚駅が開設され、日米開戦の前年の昭和15年には、谷塚村が町制施行により谷塚町となりました。

また、昭和30年には、谷塚町が北の草加町、新田村と合併して新たに草加町となり、谷塚町は消滅しました。3年後の昭和33年11月1日、草加町が市制施行により、草加市となり、同時に、旧の下谷塚村は谷塚町、中谷塚村は谷塚仲町、上谷塚村は谷塚上町、東遊馬村は遊馬町、瀬崎村は瀬崎町、柳島村は柳島町、



昭和ヘワープ！

新里村は新里町、市右衛門新田は両新田東町、彦右衛門新田は両新田西町となりました。ちなみに本年、草加市制施行52年目となります。

私の幼少の頃の谷塚は、東武鉄道は地上線で、踏み切りがあり、現在の西口ロータリーと民間駐車場あたりは、空き地と沼地で、ザリガニを取って遊んだものです。夏休みには、盆踊り大会が盛大に開催され、また年に数回、小学校の校門前には「ひよこ」売りがいたり、当時「かたや」さんと呼ばれる土粘土に金粉・銀粉等で着色をして、点数を集める遊びに夢中になりました。グリーンアヴェニュー辺りも一面の原っぱで、トンボを捕まえたり草野球やサッカーの真似事をして遊んだものです。

現在、大手ホームセンター東側に7尺水路の「たつ堀り」があります。私の父が遊泳をしたと聞きました。この水路に平行して流れていると思える辰井川はこの水路から命名されたという未確認の説もあります。県道川口草加線北側辺りには、海軍の食料供給のための養豚場があり、また、谷塚には草加煎餅製造業者が多く、煎餅屋の煙突が空高く煙を排出していた光

景が想像できます。

昭和初期の話として、草加煎餅商組合とは別に谷塚煎餅商組合を組織し、谷塚町役場に国旗掲揚台を寄贈したそうです。

谷塚と菊と

ミツバチ

また、菊の栽培が盛んで、谷塚小学校の校章は、谷塚の文字を菊が囲んでいる図案、校歌の一節には「夏菊匂う谷塚の地」という歌詞もあります。

現在でも菊栽培に配慮し、小学校の夜間照明の使用を調整しているという地域とのつながりは今でも健在です。

谷塚中学校の校章は、ミツバチの中央に中の文字の図案です。



初代校長先生によると、谷塚はもと「八塚」と称したとの事で、数字の八とミツバチの蜂は音が同じであり、働き蜂のように勤勉で、何事にもたゆまず励むように、生き続けるという意義があるそうです。また、谷塚の谷の文字を形に表すと4枚の羽と体で蜜蜂になることも決心した大きな原因だそうです。



「地域の成長力」の後押しに全力投球！

昭和の晩年、東口にしかない改札口に対応する為、地下道が建設されていた谷塚駅も、高架化にあわせ、東口・西口が利用可能となりました。生活スタイルも多様化し、新里をはじめとする西部の人たちの足であるバス路線が谷塚駅西口を利用しなくなった事などもあって谷塚小学校通りの利用が減ったのもこの頃です。

東口の開発が進み、今のライオンズタワーが建築され、毎日、日々高くなる建物を興味深く見ていました。

ますます新興住宅が増えることが予想される谷塚に今、必要とされるものは、時代と市民のニーズにあった谷塚のまちづくりだと痛感しています。



草加市議会 2月定例会報告

関一幸 一般質問 「谷塚地区のまちづくりについて」



平成22年2月24日（水）より3月19日（金）まで、草加市議会2月定例会が開催されました。今議会の内容は、「平成21年度草加市一般会計補正予算（第7号）」・「平成22年度草加市一般会計予算」・「草加市開発事業等の手続及び基準等に関する条例の一部を改正する条例の制定について」・「草加市駐車場条例の一部を改正する条例の制定について」など、市長提出議案35件、議員提出議案7件中5件を可決し、請願1件を採択しました。

私は、一般会計予算特別委員会の一員として、平成22年度予算を審査。また、3月10日に市政に対する一般質問「谷塚地区のまちづくりについて」を行いました。当日行った質問項目から抜粋し要約してご報告いたします。

■【つくばエクスプレス八潮駅から谷塚駅経由、日暮里・舎人ライナー見沼代親水公園駅、鳩ヶ谷駅、川口駅を結ぶ東武伊勢崎線に対する東西路線の拡充について、谷塚西部地区の路線バスの谷塚駅への結節について、また、谷塚地区から市立病院へのバス路線の新設について】の質問に対して、

■【新たな路線開設等を行うことは、大変困難な状況にあると推察されるが、地域のご要望等を踏まえバス事業者と調整・協議を行う。また、谷塚駅へバス路線の結節を変更することによる利便性の向上を検討する。次に、市立病院へのバス路線は病院利用という目的から、バスが利用される時間帯及び病院利用者以外の需要が限定されることで、採算性の確保が難しいが、今後もバス事業者と調整・協議を行う】との答弁をいただきました。

また、速やかな計画実行をお願い

するという観点から

■【スピードを上げてまちづくりの実現に取り組めないか】という問いかけに対しては

■【谷塚駅西口地区は、過去に市が提示した土地区画整理事業の計画案に対し、関係権利者の理解が得られず進めることができなかった経緯がある。地域の意向を反映したまちづくりの整備区域・手法で合意形成を図ることが重要であると認識。引き続き協議会とともに、関係者との意見交換や整備手法の勉強会や検討会等を積極的に開催し、早期実現に取り組む】とのこと。続いて

■【新里町から毛長橋通りを南下し市道を左折、谷塚松原線を通るバス路線は】に対し

■【路線の経路変更は、谷塚駅西口にはバスが回転できる駅前広場が無いことから、谷塚駅西口地区市街地整備事業の進捗状況等を勘案し、十分に検討を行う】とのことでした。

木下市長、新バス路線整備に前向き

そこで、最高執行権を持つ木下博信市長に対し

■【市長として、谷塚駅西口のまちづくりについてどのように進めようと考えているのか。（仮称）消防谷塚ステーションの隣地等を回転広場として利用可能になれば、駅前広場を待たずして新里町をはじめ、西部の人たちの足の確保と地域の活性化が図れるかどうか】と提案も交えて質問したところ、次のような前向きな答弁をいただきました。

■【協議会が発足し、成果として「課題とその改善に向けて」という報告書を取りまとめているという現状。



（仮称）消防谷塚ステーション整備予定地の隣地にバス回転広場を設置し、駅までの街路整備をすれば、まちにも活気があふれます。

さらに協議会の皆様と意見交換を進めていく必要性がある。谷塚のまちづくりも最終的に地域の皆様のご理解が得られないと事業が進まない側面があり、この提案をいただいた中でどのように整備をしていくのか、どういった整備が皆さんにとって有益かという点を地域の皆さんと行政が共有しながら整備を実行していけるように、お力添えいただきたい。谷塚という地域性と歴史を踏まえたいうスピードをもって進んでいけるようにやって行く」

地域の理解と行政との「協働」を強調

また、草加市南部地域バス路線の整備と谷塚駅バス回転場所については

■【ご提案の場所から谷塚駅までは若干歩が利便性は高いと考える。駅広ができるまで待つのではなく道路が開通したら是非実現したい。まさに新里を含め谷塚西部の皆さんが、歩きながら楽しく買い物ができる空間を提供するという想いを合わせて地域と行政が取り組んでいけると、400メートルという距離がまちの活性化にもつながるのではないか】

草加市南部地域のまちづくりに対する強い意気込みが感じられる答弁をいただきました。

市南部バス路線の実現へ

バス路線の整備は、その路線を利用する方達の需要に対して行われる供給です。バスの運営は民間業者が行うとしても、そのバスがどの地域を走り、どの場所に停留所を設けるのかは、地域と行政とバス運営事業者が意見を交わして決めていかなければなりません。谷塚駅行き路線が開通され、バスに乗れることによって、今まで草加市内に住んでいるのに竹ノ塚駅へ出られていた市民の皆さんが谷塚駅を利用することは、谷塚駅周辺の商業に大きなプラスの効果を生み出します。さらに、市立病院や市役所などへのアクセス向上という相乗効果にも期待できます。公共交通機関としてバス路線を整備することは、市民の皆さんの利便性と経済性、しいては安全性にも大きな安心感をもたらすものとも言えます。

私は、谷塚町選出議員として地域の声と願いを全力で議会へ届けてまいります。

とりわけ私の地元でもあります谷塚駅西口駅前のまちづくりの問題は、一朝一夕に解決できない様々な課題があり、粘り強く対応していかなくてはならない重要なテーマです。

今後は私のライフワークである教育の問題、地場産業、地元商店街の発展・活性化と併せて、根気強く取り組んでまいりたいと思います。私自身、更なる実績を一つずつ積み上げ、少しでも地域から草加市の発展に寄与できるよう努力していく所存です。

今年は、議員生活4年目となりますが、初心を忘れることなく足をしっかりと見据えた上で、何事にも果敢に挑戦し『草加市に住みたい、住み続けたいと思えるまちづくり』をスローガンに掲げ、市議二期目に向けて全力でチャレンジをしていきたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻、またご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



関一幸プロフィール

■昭和37年 谷塚町生まれ ■あずま幼稚園・谷塚小学校・谷塚中学校・県立草加南高等学校 卒 ■県立草加南中学校 同窓会 会長 ■谷塚西口商店会 副会長 ■谷塚南町会 相談役 ■草加地区手焼煎餅協同組合 副理事長 ■埼玉県米菓研究会 副会長 ■草加市地場産業振興協議会 理事 ■草加せんべい振興協議会 プロモーション部会 副副会長 ■保護司 所属団体 ■草加市消防団第一分団第二部所属 ■草加商工会議所青年部所属 ■草加青年会議所OB会所属 ■(社) 川口法人会青年部会所属